

低炭素杯 特別シンポジウム～気候変動の時代～

気候変動対応策の ② 本柱 緩和と適応

<緩和>

気候変動の原因である地球温暖化を防止することです。CO2排出量を減少させ、地球の温暖化現象を緩やかにします。

<適応>

気候変動が発生したときに、適切な対応をとることです。防災意識を高め、有事の際に自治体や個人で自らの命を守れるように考え行動することが求められています。



今回のシンポジウムでは、気候変動対策のうち、主に「適応」について
パネルディスカッションが行なわれました。パネリストの意見をご紹介します。

過去を分析し、将来を予測することで、国際的に世界平均気温の上昇を2度以内に抑えなければなりません。まず、国の取組みがあることを認識し、それに対し意見をもち、合意形成に向けて行動すべきです。



江守 正多さん
国立環境研究所
気候変動リスク評価研究室長

一般の方は、気候変動に関心がありません。ただし、防災となれば、人は集まってきます。防災教育により、自分で考え行動する人材を育成することが、適応策となります。



岩谷 忠幸さん
気象キャスターネットワーク
事務局長

自然災害が世界で頻発していることを受け、保険形態も徐々に変容しています。変化に対応し、ダメージを抑え、創造的に飛躍することで、最後に成長すること(レジリエンス)が、国や企業への課題となります。



関 正雄さん
損保ジャパン日本興亜
環境財団 専務理事



自分の命は自分で守らなければなりません。商品選択は未来への投票です。私たちの選択が資源やエネルギーの動態を決定しているのです。

日頃の備えとして、地域連携を深めていくことが重要となります。高齢者や障害者の方たちに対してのフォローも大切です。



大石美奈子さん
日本消費生活アドバイザー・
コンサルタント・相談員協会 理事



市橋 新さん
東京都環境科学研究所
主任研究員

2012年、猛暑により、アメリカの原発が停止しました。このように前代未聞の災害が発生するリスクは増加していきます。適応策は社会の質を向上させるものです。個別具体的に行動することが重要となります。



川北 秀人さん
I I HOE
【人と組織と地球のための国際研究所】代表

連携が大切です。他の地域の実践例を学び、自分の地域の問題と照らし合わせることで、多様な被害を予測し災害時対応のシミュレーションをすることが必要となります。

※各写真は「低炭素杯公式ホームページ」より

編集後記

今回参加して、低炭素杯のファイナリスト等の低炭素社会づくりをしている団体から学び、自分たちの地域に合った取り組みを早く進めることが必要だと、焦りに似た感覚を持ちました。また、「気候変動の時代」では、既に気候変動への適応対策がかなり進んでいることを知り、自ら考えて危険を回避できる地域こそ持続可能な地域になり得るのだと気づきました。

鳥取環境大学3年 関口 浩太

鳥取県地球温暖化防止活動推進センター通信(季刊) 「TCCCA(トッカ)ニュースレター」

(平成27年VOL.15 3月発行)
発行:鳥取県温暖化防止活動推進センター
(特定非営利活動法人 ECOフューチャーとっとり)

〒689-1111 鳥取県鳥取市若葉台北1-1-1
鳥取環境大学サステイナビリティ研究所内
TEL/FAX:0857-52-2700 E-mail:eco.f.tottori@gmail.com
ホームページ:<http://ecoft.org>(Facebookもやっています。)
本誌のカラー版は、ホームページよりダウンロードできます。
協力:鳥取環境大学「地球環境を考える会」印刷:綜合印刷出版株式会社

NPO法人「ECOフューチャーとっとり」の活動を支援くださる会員を募集しています。
入会費 0円(当面の間) 年会費 正会員 3,000円 学生正会員 1,000円 賛助会員 6,000円 事務局へご連絡下さい。
鳥取県地球温暖化防止活動推進センター通信「TCCCAニュースレター」VOL.15 2015